



東小だより

矢巾町立矢巾東小学校 校報

No.6 令和8年 6月30日

【学校教育目標】

かしこく 心豊かで たくましい子

6年修学旅行・5年野外活動での成長

6月10日・11日に6年生の修学旅行を実施しました。平泉・松島・仙台市内を見学場所とし、スローガン「信頼」を掲げて出発しました。平泉の出前授業での事前学習、東日本大震災の学び「いきる」「かかわる」「そなえる」をふまえた荒浜小学校での震災学習等で、歴史・文化・防災について、現地見学でなければ感じる事ができない貴重な体験となりました。また、うみの杜水族館、八木山ベニーランド、ホテル松島大観荘では、友だちのよさを改めて感じた時間となりました。当日は、話の聞き方、時間を守ることがいつも以上に発揮されたことが成果の一つでした。「場に合った言動」を周囲に流されることなく、自己判断を高めて実行できるようにこれからも声がけをしていきたいと思っています。ご家庭でも、学校での様子を、自分の判断が正しいのかどうか、その場に適した言動かどうか、成長のため（中学校進学を控えて）に折に触れて話題にしていいただければ幸いです。ご家庭での準備・お声がけのおかげでよい思い出をつくることができました。ありがとうございました。

6月22日・23日に5年生の野外活動を実施しました。区界高原少年自然の家を活動場所とし、スローガン「チャレンジ」を掲げました。1日目はあいにくの空模様となりましたが、源流探索を屋外で実施し、自然の素晴らしさとともに厳しさも体験を通して感じる事ができました。キャンドルを照らしての集会、宿泊施設での食事や睡眠を友だちと一緒に過ごすことを通して多くのことを学ぶことができました。2日目は、水晶を一生懸命に探し、そして班ごとにカレー作りを行いました。自分たちで協力して作ったカレーの味は大切な思い出になったように感じました。

「チャレンジ」というスローガンは、自分の行動を自分で正しく判断し行うこと、また、集団での生活を通して、みんなで行う活動だからこそ大切にしなければいけないことに気づくチャレンジでもありました。時間を守ること、活動の手順をしっかりと聞くこと、協力することの大切さを活動を通して感じました。ご家庭での準備・お声がけのおかげで大きなけがもなく過ごすことができました。ありがとうございました。



「子どもの困り感」に寄り添い、共に育むために

～いじめに関するアンケートの結果と、学校・家庭の連携について～ 【裏面に続く】

先日実施いたしました「いじめに関するアンケート」では、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。皆様からいただいた声を真摯に受け止め、全教職員で共有し、日々の指導に活かしていく所存です。結果をご報告いたします。

【アンケート結果のご報告】

●いやがらせ： 12 件 ●たたく・蹴るなど： 12 件 ●悪口・冷やかし： 11 件

●あだ名で呼ぶ： 3 件 ●仲間外れ： 2 件

■ 件数の多さよりも「解決への質」を重視する

学校として大切なのは「件数がゼロであること（見えない化すること）」ではなく、「小さなサインも見逃さず、起きてしまった事案をいかに迅速に、かつ確実に解決へと導くか」であると考えています。

いじめやトラブルの解消には、何よりも児童の「困り感」をいち早くキャッチし、学校と家庭が手を取り合って共有することが不可欠です。

■ 学校生活をよりよくするために～本校の課題とお願い～

一方で、日頃の本校児童の様子やトラブルの背景を見ていく中で、本校全体の課題として気になる傾向もあります。

1. 「周りのせい」にしてしまう他責の傾向。トラブルがあった際、子どもたちの中に「他の子におおられたから」「みんなもやっているから」と、自分の行動の責任を他者に転嫁してしまう姿が散見されます。

2. わが子の言い分だけを「鵜呑み」にしてしまう危険性。児童はおうちの方に心配させたくないという思いから、自分のかかわりを伝えずに、されたことのみを話してしまうことがあります。お子さんが家庭で話す「被害の訴え」をすべて正しいものとして受け止めてしまうと、周囲の状況を正確に把握できない場合も少なくありません。トラブルが起きた際、相手を責めることだけで終わらせてしまうと、子ども自身が「自分の何がいけなかったのか」「次はどうすべきか」を学ぶ貴重な成長の機会を失ってしまいます。

■ 共に、子どもたちの「自立」を支えるパートナーとして

お子様から困りごとの相談があった際は、まずはその不安な気持ちをしっかりと受け止めて（共感して）あげてください。その上で、「相手にも何か理由があったのかもしれないね」と、一歩立ち止まって客観的に振り返る問いかけをお願いいたします。学校からも聞き取ったことをお伝えいたします。

学校は、子どもたちが失敗を重ねながら社会性を学ぶ場所です。私たち教職員も、表面的な事実だけでなく、子どもたち一人ひとりの心の背景に寄り添った指導に全力を尽くします。

保護者の皆様におかれましても、どうか「わが子の健やかな成長」という共通のゴールを目指すパートナーとして、学校との緊密な連携にご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。